

ドミニカ共和国調査報告

ドミニカ共和国における日系人の日本語使用の実態について

国立民族学博物館
外来研究員 窪田暁

はじめに

ドミニカ共和国（以下、ドミニカ）の日系人については、これまで JICA などの国際協力における日本語教育の現場での関心はあったものの、研究対象として言語使用の実態を調査したものはない。しかし、人類学の調査をドミニカで実施し、現地に暮らす日系人（1 世）と接するなかで彼らの故郷への意識と言語使用との関係に関心をもつようになった。また、国内のドミニカ系コミュニティでの調査では、日本に働きに来ている日系ドミニカ人（2 世・3 世）の言語使用が、移民のおかれている社会的状況に影響を受けていることが明らかになってきた。

このような問題関心のもとに、本プロジェクトでは、ドミニカにおける日系人の言語使用や言語習得の現状を把握し、国内の 2 世・3 世を含めた、移民にとっての言語の存在を故郷との紐帯という視点から調査を実施することにした。

具体的には、以下の課題を設定して現地調査をおこなった。

- 1) ドミニカで暮らす日系人の言語使用や言語維持の状況について調査をして、実態を把握する。
- 2) 日本国内の日系ドミニカ人に対する調査を継続し、彼らの故郷認識を言語使用の意識調査から明らかにする。
- 3) ドミニカ、日本にわかれて暮らす家族への聞き取り調査を実施し、紐帯としての日本語という視点で分析を試みる。

こうした課題を明らかにするために、ドミニカでの現地調査を 2 回実施し、日系人に対して聞き取り調査をおこなったが、本稿は、その調査結果をまとめたものである。次節以降では、まずドミニカの日系人の概要について説明し、言語使用の実態についての調査結果を記述し、考察をおこなう。

1. ドミニカの日系人について

日本からドミニカへの移民は 1956 年 7 月の 28 世帯 185 人を皮切りに、その後の 3 年間で計 249 家族 1,319 名が農業移住者として入植した。そのほとんどが、日本政府が配布した移住者募集要項にあった「300 タレア（18 ヘクタール）の土地が無償譲渡される」という文言を信じて応募した人たちだった。しかしながら、実際には、三分の一程度の面積が

与えられたに過ぎず（所有権ではなく、耕作権のみ）、その地質も石ころだらけの耕作に適さないものであったという。

1961年に、日本人受け入れを推進した独裁者トルヒージョが暗殺されると、政情不安のなかで、日本人に対する略奪などがはじまり、これを機に集団帰国や他国への再移住を決意する家族が出現した。翌年までに、計133家族611人が帰国し、70家族193人が南米へと移住した。その後、日本政府とのあいだで話し合いを重ねたものの、一向に当初の約束が履行されなかったために、2000年に日系人125人が日本政府を約束不履行に関する損害賠償を求めて提訴する。2006年、一審判決で国の不法行為は認定されたものの、時効により損害賠償の請求権は却下された。控訴審において政府が小泉首相の「遺憾の意」表明を含む和解案を提示し、遺族らに一時金を支払うことで合意にいたった。2007年3月の時点で、277戸849名の日系人がドミニカに居住している。

1990年に入管法が改正され、日系人の就労条件が緩和されると、ドミニカに残留した日系人の2世を中心に、日本への出稼ぎがはじまる。その多くは、神奈川県工業団地で働き、現在は100人あまりの日系ドミニカ人とその配偶者・子女が生活をしている。

2. 日系人の言語使用の実態

ここでは、本プロジェクトによる現地調査について報告する。

1) 調査の概要

【2011年度】

調査時期：平成2012年2月9日～平成2012年3月2日

調査地：ドミニカ共和国サント・ドミンゴ市、ハラバコア市、ボナオ市

調査対象：ドミニカ日系人協会、日系人14名

【2012年度】

調査時期：平成2012年12月25日～平成2013年1月6日

調査地：ドミニカ共和国サント・ドミンゴ市、ハラバコア市、ボナオ市

調査対象：ドミニカ日系人協会、日系人6名に対する継続調査

調査は、1世とその家族を中心に実施し、方法はアンケート用紙を使った対面式のインタビュー調査でおこなった。調査結果を日本語とスペイン語の能力に分けてまとめたものが以下の表である。また、言語使用の実態は、1) 1世は日本語を保持しているが、書く機会が少ないために文字を忘れていくものも多く、スペイン語の習得がおもに会話中心になされたために、スペイン語を書けない人が多い、2) 1世の言語能力は移住時の年齢、職業、家庭環境によって異なる、3) 1世の日本語は、移住まえに習得したものと日系コミュニテ

ィで使用する範囲で保持されている、4) 1世の日本語継承への意識は高いが、2世はドミニカ人との結婚で、日本語を使用する機会が減少しているために、日常的にスペイン語が使用されることが多くなっている。また、2世は機能的な面でスペイン語を選択しているのが現状である（日本語の使用は親との会話のみ）という結果であった。

調査では、基本的な質問項目にくわえ、1世から2世への言語継承についてその意識とあわせてインタビューを実施した。子どもには日本語を通じて日本人であることを確認して欲しいとの意識は多くの1世から聞かれた。その意識は、日本語教育に対する取り組みに表れている。子息への日本語教育は、1世の移住後すぐに各入植地（ダハボン、ネイバ、コンスタンサ、ハラバコア、首都サント・ドミンゴ）で自発的にはじまった。教師は、1世のうちで比較的時間に余裕のあった主婦が担っていた。1990年には、日本語学校が設立され、JICA ボランティアなどの日本語教師が派遣されている。日本語学校は週に1回ないしは、平日の午後に開校される。

このように1世の言語継承への意識は高く、家庭内での会話は日本語だけを使用する家族がほとんどであったが、1世の高齢化が進み（平均年齢は69才）、2世・3世の多くがドミニカ人との結婚やスペイン語との接触によって日本語が維持されなくなっており、言語継承の意識と現状には差がみられた。また、言語継承の場が家庭での日常会話に限定されており、コミュニティでの会話も2世間ではスペイン語が中心となっていることも日本語の継承が進んでいない原因となっている。3世は母語がスペイン語である場合がほとんどで、祖父母である1世との会話でしか日本語は使用されずに、挨拶や呼称などの象徴的な場面での使用にとどまっている。

日系人の言語能力: 調査時期2012年2月							
	T. 日高	日高Jr.	T. 浜田	中川	立山	浜田トキ	K. 高田
調査時の年齢	69	46	64	62	71	90	19
移住時の年齢	16	ド生	9	8	16	38	ド生
母語	日本語	日本語	日本語	日本語	日本語	日本語	ス
移住時の日本語能力	話す、聞く ○○		話す、聞く ○○	話す、聞く ○○	話す、聞く ○○	話す、聞く ○○	
	読む、書く ○○		読む、書く ○○	読む、書く ○○	読む、書く ○○	読む、書く ○○	
現在の日本語能力	話す、聞く ○○	話す、聞く ○○	話す、聞く ○○	話す、聞く △△	話す、聞く ○○	話す、聞く ○○	話す、聞く ××
	読む、書く ○△	読む、書く △×	読む、書く ○△	読む、書く △×	読む、書く ○△	読む、書く ○○	読む、書く ××
現在のスペイン語能力	話す、聞く ○○	話す、聞く ○○	話す、聞く ○○	話す、聞く ○○	話す、聞く ○○	話す、聞く △△	話す、聞く ○○
	読む、書く ○×	読む、書く ○○	読む、書く ○△	読む、書く ○×	読む、書く ○×	読む、書く ー	読む、書く ○○
		両親は日本人					父日、母ド
	松永	Sr. SETO	Sra. Seto	宝代	立山カズヨ	立山サチコ	浜田ケイコ
調査時の年齢	75	69	69	57	46	35	22
移住時の年齢	20	17	17	4	ド生	ド生	ド生
母語	日本語	日本語	日本語	日本語	日本語	ス	ス
移住時の日本語能力	話す、聞く ○○	話す、聞く ○○	話す、聞く ○○	話す、聞く ○○			
	読む、書く ○○	読む、書く ○○	読む、書く ○○	読む、書く ××			
現在の日本語能力	話す、聞く ○○	話す、聞く ○○	話す、聞く ○○	話す、聞く △○	話す、聞く ○○	話す、聞く △△	話す、聞く ○○
	読む、書く ○×	読む、書く ○△	読む、書く ○○	読む、書く △×	読む、書く ○△	読む、書く ○△	読む、書く △△
現在のスペイン語能力	話す、聞く ○○	話す、聞く ○○	話す、聞く ○○	話す、聞く ○○	話す、聞く ○○	話す、聞く ○○	話す、聞く ○○
	読む、書く ○×	読む、書く ○○	読む、書く ○△	読む、書く ○○	読む、書く ○○	読む、書く ○○	読む、書く ○○
					両親は日本人	父日、母ド	T. 浜田の養女 両親はドミニカ人

3. 収集資料と研究成果発表

2度の海外調査では、インタビューによる一次資料を中心に収集をおこなった。1世が高齢化を迎えて、多くの人が鬼籍にはいつていることから、さらなるデータ収集が必要である。本プロジェクトにもとづく研究成果発表は以下のとおりである。

(口頭発表)

窪田暁 2012 「ドミニカ共和国における日系人の言語使用に関する予備調査報告」『科学技術研究費基盤研究(B)「<紐帯としての日本語>」調査報告会』、2012年3月、東京外国語大学

窪田暁 2013 「ドミニカ人の言語使用と言語意識」国立民族学博物館共同研究会『日本の移民コミュニティと移民言語』、2013年3月16日、国立民族学博物館。

窪田暁 2013 「ドミニカ系移民にとってのスペイン語—関係構築の資産としての母語」日本移民学会第23回年次大会ラウンドテーブル『移民言語の生かし方—移民コミュニティにとって』、2013年6月30日、武蔵大学

<参考文献>

1993年 今野敏彦、高橋幸春編『ドミニカ移民は棄民だった』明石書店

2009年 獄釜徹編『青雲の翔—ドミニカ共和国日本人農業移住者50年の道』ドミニカ日本人移住50周年記念祭執行委員会